

秋田・藩校明德館跡

- 1 所在地 秋田市中通二丁目
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13)六月～一月
- 3 発掘機関 秋田市教育委員会
- 4 調査担当者 安田忠市・伊藤武士・中川宏行
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 一七世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(秋田)

藩校明德館跡は、秋田藩主佐竹氏の居城である久保田城下の内町(侍町)、城の外堀から南に約一二〇mに位置している。調査面積は約二二〇〇㎡である。調査地は一七世紀初め、久保田城築城に伴う町割の当初から上級家臣屋敷地として利用され、江戸時代後期の寛政二年(一七九〇)以降南半が藩校敷地として利用されるようになる。明治維新まで藩校として存続し、

その後は秋田県師範学校などとして利用された。

調査の結果、一七世紀初めから一九世紀にかけての遺構及び遺物を検出し、武家屋敷の遺構、藩校と武家屋敷地の境界の堀跡、藩校及び師範学校の建物の一部などを確認した。検出遺構としては建物・柱列・溝・井戸・土坑などがあり、木簡は三号井戸埋土より一点、一号土坑埋土より二点、表土より一点、計四点が出土した。

三号井戸は調査地南側(藩校・師範学校側)に位置し、一辺九〇cmの隅柱横棧式の井側を組み、深さ約三mある。出土陶磁器から、一八世紀から一九世紀の年代に位置づけられる。一号土坑は北側の廃棄土坑である。検出層位や出土陶磁器の年代から一八世紀に位置づけられる。表土出土木簡は年代を特定できない。

8 木簡の釈文・内容

三号井戸

(1) 米七〇〇〇〇八〇

川

(244)×28×6 051

一号土坑

(2) 「。納大豆三斗入与助」

207×39×10 011

(3) 酒代 入

(155)×49×2 019

表土

(4) 「第一段」



(148)×35×3 081

(1)は板状で下部はわずかに欠損している。上部は平たくし、孔が穿たれている。下部は先端を尖らせている。

(2)は板状ではほぼ完形の大皿の付札である。下部は端部が若干削りにより細く加工されている。上部には孔が穿たれている。

(3)は長方形の薄い板状と思われるが、上部が欠損している。

(4)は長方形の薄い板状で、左辺は二次的整形、下部は欠損している。

9 関係文献

秋田市教育委員会『藩校明德館跡』(二〇〇二年)

(伊藤武士)



(3)

(2) 表



(1)



(2)



(3)



(4)